

籾水分情報 Vol.5

令和6年8月27日
農業技術研究センター

高温の影響により、例年より出穂が早まっています。気象庁は今後も高温になると予報しており、登熟は早く進み、収穫期の前進が予想されます。高温時には玄米の成熟よりも帯緑色籾の減少が遅れることがあるため、刈り遅れないよう籾水分を確認し、25%になったら収穫を開始しましょう。また、高温時には籾水分のばらつきが大きくなるため、平均値だけではなく、その分布も刈取適期判定に重要です。そこで当センター玉井試験場内水稲ほ場の籾水分状況を調査し、原則として、毎週火、金曜日に公表しています。

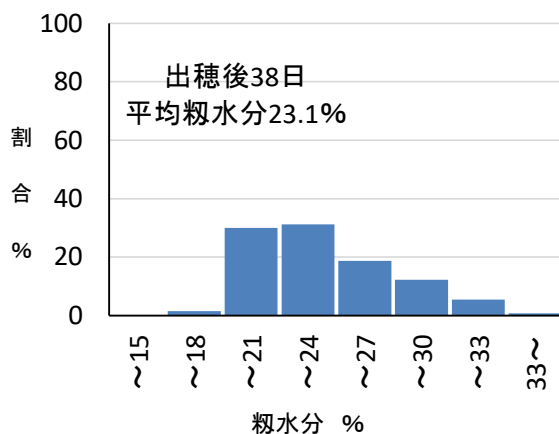
ほ場の観察や籾水分の確認と併せて本情報を活用いただき、適期の刈取りを行い高品質米を生産しましょう

8月26日現在の状況

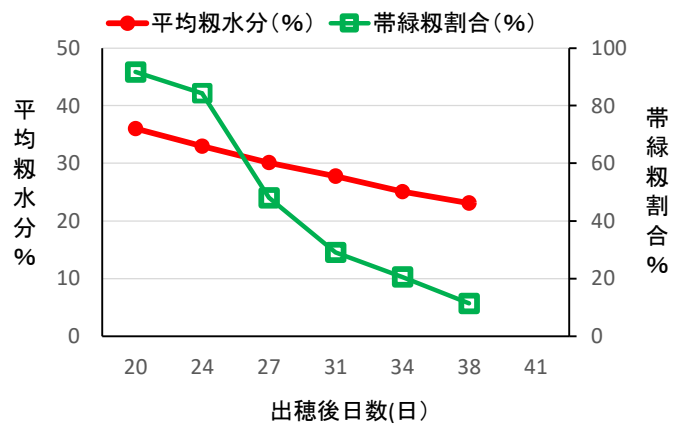
◎ 5月1日植コシヒカリ

(出穂期：7月19日、出穂後38日、出穂～測定前日までの積算気温1116℃)

- ・ 籾水分の平均値は刈取開始目安を下回る23.1%です。単粒の籾水分は24%以下が6割以上、その内3割以上が21%以下迄低下しています。帯緑籾割合は11.4%、出穂～測定前日までの積算気温は1116℃といずれも収穫適期の目安の晩限になっています。登熟が進み、写真のように玄米には青米がほとんどみられない状態です。速やかに収穫作業を行いましょう。今週は連日降雨が予想されています。降雨後は、籾や茎葉が乾いてから収穫作業を実施し、倒伏や登熟ムラの大きい箇所は刈り分けを行いましょう。



○籾水分の分布



○平均籾水分、帯緑籾割合の推移



○5月1日植コシヒカリ、出穂後38日（8月26日）の玄米（篩目1.8mm）

- *（参考）早期栽培コシヒカリの収穫適期の目安
登熟積算気温 950～1150℃、帯緑籾割合 15～10%
- * 単粒水分の測定方法：午前10時30分頃、中庸な1株からサンプリングした約10本分の穂を脱粒し、2.1mm目の篩により不稔籾を除いた籾を単粒水分計により測定（2反復）。
- * 今後、情報提供予定の品種：5月21日植「彩のかがやき」→9月6日から提供開始
5月29日植「彩のきずな」→8月30日から提供開始
6月25日植「彩のきずな」→9月10日から提供開始